

◆Interview

APOTCを通してみる

アジア太平洋地域の作業療法

対象となる方の社会・文化的背景にもとづいた生活支援を重視する作業療法。異なるバックグラウンドをもつ方が集まる APOTC を機に、日本で開催される WFOT 大会実行委員長の山根 寛氏が、アジア太平洋地域の作業療法の現状と課題を探るべく、第 5 回 APOTC 大会長 Somsak Kanaprasertkul 氏、WFOT アジア太平洋地域グループ President の Suchada Sakornsatian 氏、Chiang Mai 大学作業療法学部長の Nuntanee Satiansukpong 氏の各氏とそれぞれと対談いただきました。世界を通して日本の作業療法の行方を考える契機としていただければ幸いです。(編集部)



第 5 回アジア太平洋作業療法学会開催にあたって

Somsak Kanaprasertkul

Chairman of Organizing Committee, 5th APOTC

President of Occupational Therapist Association of Thailand

〔聞き手〕山根 寛

山根 まず、先の洪水の被害に遭われた方々に、心よりお見舞い申し上げます。またそのような大変な折に、本学会を開催されたこと、大変ご苦労が多かったことと思います。

Kanaprasertkul 温かいお気持ち、ありがとうございます。

私たちは何より、本学会へ参加してくださる皆様への影響を心配しました。ニュース等で大きく報道されていたと思いますが、本当に被害が深刻なのは一部の地域だけで、チェンマイの学会会場のある周囲は、特に影響はありませんでした。

山根 日本作業療法士協会が何かできることがあれば、できるかぎりのことをさせていただくと中村春基会長も申しておりますので、ぜひお知らせください。

Kanaprasertkul ご親切に感謝します。日本とタイの OT の関係は、長いお付き合いですし、真の友人のように感じています。まず、自分たちで復興を目指しますが、日本の皆様の支援が必要になった折には、ぜひご協力をお願いできればと



Kanaprasertkul 氏 (右) と山根氏

思います。



タイの作業療法事情

山根 タイには現在、OT の有資格者は何名くらい、いらっしゃいますか？

Kanaprasertkul 746 名です。タイには OT を養成する 2 つの大学があり、Chiang Mai 大学の学生が 70 名、バンコクにある Mahidol 大学が 30 名となっています。学生が増えていることに伴って、毎年 OT 数が増加しています。

山根 現在、日本では高齢化が深刻な問題となっています。タイでは OT が関わる領域で、課題となるのはどのようなことでしょうか？

Kanaprasertkul タイでも同様で、おそらくどの国にとっても、高齢化はこれからの課題となるのではないのでしょうか。わが国では政府が高齢者の環境改善について計画を策定しており、デイ

ケアユニットを立ち上げています。認知症の方などが作業療法の対象となっています。

山根 最近では、日本は東日本大震災を経験したこともあり、災害後の生活支援においても、作業療法として何ができるのか、ということが議論されています。

Kanaprasertkul タイのOTも、6年前には津波の被害者の支援を経験したことがあります。ただ、先の洪水の被害者へのOTとしての支援は、まだあまり行えていません。なぜなら支援すべきOTたちも被災しているからです。実は私もバンコクの近くに住んでいて、被災者なのです。おおよそ10~20%ほどのOTが被害にあったという情報もあります。ただ、コミュニケーションをとっていますので、タイの作業療法士協会の活動については、特に滞るようなことはありません。

WFOTは災害後の支援もOTの役割として示していますし、私たちにも支援のプランはあるのですが、その実施については残念ながら限られた範囲となってしまっています。



APOTC 開催について

山根 第5回目となるAPOTCを開催されるにあたり、ご苦労されたのはどのような点でしょうか？

Kanaprasertkul さまざまな文化的背景をおもちの方々が参加されますので、そこに気を配りました。“アジア太平洋地域”の学会とはいえ、欧米からの参加者もいらっしゃいますので、それぞれの文化を意識するといった意味も込め、今回のテーマは“Opening World : Optimizing Occupational Therapy Practice”としました。

山根 開会式で披露された民族舞踊や楽器の演奏等、たくさんのエンターテイメントで私たちを楽しませてくださっていますね。

Kanaprasertkul タイの伝統的な音楽の演奏、遊びの披露をしたり、民族舞踊等のエンターテイメントを多く用意しましたが、ほとんどが作業療法学生のパフォーマンスとなっています。これは、実際にはコストのためということもありますが、学生たちが卒業した後のことも視野に入れて

います。というのは、学生がOTとなったとき、アクティビティ等で対象者の方にダンスやレクリエーション等の指導することになる可能性もあるわけです。対象者にしていただく前に、まず自らがそれを実演できなければ……、という意図もあります。

山根 日本は2014年にWFOT大会(16th International Congress of the World Federation of Occupational Therapists : 第16回世界作業療法士連盟大会)を横浜で開催しますが、日本でもこのようなおもてなしができれば、と思っています。タイの学生さんたちは、まるでプロのようなパフォーマンスをみせてくださいましたので。

Kanaprasertkul 参加者の方には「プロですか?」と聞かれました(笑)。

山根 このようにパワフルなタイの学生さんやOTの皆様、ぜひ日本でのWFOT大会にご参加いただければと思います。

Kanaprasertkul そうですね。日本でのWFOT大会のPRに関しては、タイの作業療法士協会のサイト等でもご協力させていただきます。

山根 ありがとうございます。アジアで初開催となる大会ですので、この機会を生かして、タイの皆様はもちろん、アジアの作業療法を一つに、強い絆で結ぶことができればと思っています。

Kanaprasertkul それはいいですね。西洋と東洋の両方の英知を集めて、新たな技術を生み出したりできるかもしれません。また、日本へのリクエストとして、参加費が安いとありがたいです。日本は物価が高いですからね(笑)。

山根 最大限努力します。ぜひWFOT大会の会場でお目にかかれればと思います。

本日はお忙しい中、ありがとうございました。

(2011年11月21日, The Empress, Chiang Maiにて収録)



WFOT アジア太平洋地域の作業療法事情

Suchada Sakornsatian

President, Asia Pacific Occupational Therapy Regional Group

〔聞き手〕 山根 寛



WFOT アジア太平洋地域グループについて

山根 Suchada さんは、WFOT (World Federation of Occupational Therapists) のアジア太平洋地域グループの代表をされていますが、この地域の状況を教えていただけますか？

Sakornsatian そもそも、佐藤 剛先生 (元札幌医科大学) のおかげでアジア太平洋地域の国々の OT の連携が始まりました。とても素晴らしいアイデアだったと思います。マレーシアの Nathan 教授の助けもあり、この地区グループを組織するに至りました。

山根 佐藤先生は残念ながら亡くなりましたが、日本とアジアとのつながりは今後も強化していきたいと思っています。

Sakornsatian そうですね。現在このグループのミーティングでは、メンバー国同士が互いにコミュニケーションをとるかが話題となっています。そのため、アジア太平洋地域のウェブサイト運営に必要な資金集め等、何らかのプロジェクトが必要だと考えています。

山根 現在課題とされていることは何かありますか？

Sakornsatian 現在約 20 カ国がアジア太平洋地域グループのメンバーなのですが、実はこれまで、私たちはどの国が当グループに属するべきなのか、明確にはしてきませんでした。現在、イラン・イラクの方も所属されているのですが、Arabic Occupational Therapists Regional Group が設立されたと聞いていますので、これについては今後の会議で検討しなければなりません。



Sakornsatian 氏 (左) と山根氏



アジア太平洋地域グループの作業療法教育と交流

山根 アジアでも作業療法を学ぶ学生が増えてきていますが、本グループの教育事情についてはどのようにお考えですか？

Sakornsatian 交換留学制度等が設けられればよいと思っています。言語は異なるかもしれませんが、私たちの文化的背景には共通するものがありますから、より多くのことをお互いの国から学び合えればと思います。

また、それぞれの国の国内の作業療法学会であっても、他国の代表を招待する企画をしてみても……と思います。もしくは、シンガポールとマレーシアがジョイントでシンポジウムを開いているように、近隣の国が交互に学会を主催するような企画も面白いかもしれません。このシンポジウムにはタイも招待していただいています。お互いの経験を共有できる、よい機会となっています。



WFOT2014 に向けて

山根 日本は team Japan として WFOT2014 の開催準備をしています。何かメッセージをいただけますか？

Sakornsatian 世界の方々に来ていただくための PR が大切になりますね。プログラムの内容を早めに決めることも大切です。なぜなら、誰がスピーカーになるのかの情報をもとに、学会に参加するかどうかを決定する方も多いからです。本学会の場合は、欧米・アジア太平洋地域のスピー

カーのバランスも大切にしました。

山根 WFOT2014に関しては、現在、すべての参加国にご案内を送り、キーノートスピーカーを募っています。2012年（平成24年）の夏までにはすべて決定される予定です。また12月から演題の募集を開始します。

Sakornsatian 理論的なものと実践的なもの、両面のレクチャーを期待しています。

山根 今回、本学会へ日本からのOTは100名ほど参加していると聞いています。しかし、日本のセラピストが国外へ出て発表する機会は、まだ少ないのです。そのため、APOTCや次回日本で開催となるWFOT大会等を通じて、日本の作業療法についてお伝えしたいと思います。

Sakornsatian 楽しみにしています。

山根 本日はありがとうございました。

(2011年11月23日、Empress Convention Center, Chiang Maiにて収録)



タイの作業療法教育

Nuntanee Satiansukpong
Associate professor of Chiang Mai University
Head of occupational therapy department
(聞き手) 山根 寛

山根 日本での作業療法教育は1960年代に始まりましたが、タイではいつごろから開始されたのですか？

Satiansukpong 31年前に始まりました。1980年代です。

山根 教育について、何か課題はありますか？

Satiansukpong 個人的な見解ですが、もっと大卒のOTが必要だと思います。タイの人口は約6,600万人で、OTは小児、高齢者、身体障害、司法、精神科等、多くの領域で働いているのですが、OTを必要としている方が多くいらっしゃる一方、そのすべてに対応できていないと思います。

山根 WFOTの基準に沿った教育になりますので、実習等のあり方は日本と同様ですね？

Satiansukpong はい。当大学の卒業生がタイ全土にいますので、実習地を探すのは難しくなく、学生側が選択できる状況です。

文化を反映した作業療法と教育

山根 この学会では学生さんがタイの伝統舞踊を披露される等、活躍されていますね。

Satiansukpong ありがとうございます。踊ることは私たちのライフスタイルの一部です。体を動かすことで気分もよくなりますし、作業療法に使うこともあります。最近では子どものころから、幼稚園等でダンスを習わせるようです。

山根 大学で作業療法のアクティビティとして伝統芸能を学ぶこともありますか？

Satiansukpong エクストラカリキュラムのアクティビティとして、学友同士学び合うことがあります。

山根 レセプションで披露してくださった、タイの遊びは日本の遊びと似ていると感じました。

Satiansukpong ココナッツを使った竹馬や、日本のおはじきに似た遊び、バナナの茎を銃に見立てたもの等があります。以前、私は同僚とタイのローカルなおもちゃ・遊びにどんな種類のものがあるのか調査しました。お年寄りが若いころ、どのような遊びをしていたか等、高齢者と遊びについて話し、実際に遊んでみましたが、遊びを作業療法に取り入れることは有用であることがわかりました。

山根 本学会ではエレファントセラピーのワークショップをされる等、タイならではの作業療法をご紹介されていますね。

Satiansukpong はい。“Thai Elephant-assisted Therapy Project”があり、当大学の教員らからなるチームが活動し、自閉症やダウン症等、特別な支援が必要な子どもたちを対象としています。

山根 象を使うのは、タイ独特ですね。

Satiansukpong そうですね。象は体の大きさから注目を集める動物ですし、賢く、コミュニケーションもできます。たとえば「物を拾って」と指



Satiansukpong 氏 (右) と山根氏

示すれば従いますし、絵を描く象もいます。わが大学のシンボルも象が松明をもっている図柄です。象はわが国のシンボルといえます。

山根 その他、タイの作業療法に特徴的なことはありますか？

Satiansukpong タイ独自かどうかわかりませんが、たとえばタイ料理の調理をよく作業療法に使用します。その他ガーデニング、フラワーアレンジメント等、生活に根づいた活動はすべて使います。

山根 現在、オーストラリアや米国では、OT 自身はアクティビティを提供しなくなっていると聞きます。

Satiansukpong なぜですか？

山根 アシスタントがアクティビティを提供したり、その他の専門のセラピスト（たとえば音楽療法士等）がセッションを行うようです。

Satiansukpong アシスタントはアクティビティの補助はできますが、その患者さん・利用者さんに適したように調整したり、個々のニーズに即対応することはむずかしいでしょう。そこが OT とアシスタントの違いだと思います。

山根 タイでは、OT アシスタントは養成されているのですか？

Satiansukpong 過去にはしていました。しかし何年も前に養成をやめています。

現在、アシスタントの中には大学に戻り、学位を取るために学んでいる人もいます。ただし移行措置等はなく、4年間学ばなければなりません。



卒業後の進路

山根 Chiang Mai 大学の学生さんは、卒業後、どのような領域で働かれていますか？

Satiansukpong 病院、リハセンター等ですが、増えているのはコミュニティで高齢者、小児をみるケースです。

山根 日本の場合、約 60% の OT は病院で働いています。

Satiansukpong タイも同様だと思います。ただタイでは、学校で働く OT が増えつつあります。

山根 日本では作業療法の対象になる疾患として、高齢化による認知症やうつが課題です。タイではいかがでしょうか？

Satiansukpong タイでもそうです。昔は大家族でしたが、核家族が増え、話し相手がいなくてストレスを解消しづらかったり、孤独を感じたりする人が増えているようです。社会環境の変化が影響していると思います。

山根 日本で開催する WFOT2014 では、学生のセッションを設ける予定です。タイの学生さんともジョイント企画ができるといいですね。

Satiansukpong アシスティブテクノロジー等について、特にタイは他国より学ぶべきところがあると思います。情報の共有を期待しています。

山根 お互いに高め合う機会になることを望んでいます。ありがとうございました。

(2011 年 11 月 24 日, Empress Convention Center, Chiang Mai にて収録)



インタビュー 後記

今回、機会があってタイをはじめアジア太平洋地域の作業療法事情の概要を知ることができた。本号の「アジア太平洋作業療法学会を通してみる WFOT 大会 2014」でも触れたが、アジア諸国の OT は、日本には高い関心を示し、青年海外協力隊で派遣された OT との交流等はなされているが、日本の作業療法事情に関してはほとんど知られていないことがわかった。第 16 回の WFOT 大会を機に、アジア諸国の交流や連携が広がることを期待したい。

(山根 寛)